

## 学校評価アンケートの自己評価結果について

立春の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。さて、12月に実施しました保護者アンケートに多数ご協力いただきありがとうございます。今回も948名の保護者（児童数の約89%）の方から回答をいただき、本校教育への皆様の関心と期待の高さを感じ、大変ありがたいと思っております。また、同時期に児童、教員も同様のアンケートを行い学校評価最終自己評価として下表のようにまとめました。今回のアンケートの結果を踏まえ、来年度の学校経営計画の目標等を検討していきたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解・ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

保護者アンケート	144	92.3%	180	93.3%	149	86.6%	152	91.6%
	158	87.8%	165	84.6%	計948人/(1051人中)		88.8%	
児童アンケート	152	192	低学年344人					
	171	162	180	189	高学年702人		総計1046人	

分類の仕方  
 低学年児童（1，2年） A：そう思う B：まあまあ C：そう思わない  
 高学年児童（3，4，5，6年）保護者，教員  
 A：あてはまる B1：ややあてはまる B2：あまりあてはまらない C：まったくあてはまらない

評価者	項目	前期 4～7月			後期 8～12月				
		A	B		A	B		C	
			B1	B2		B1	B2		
学力の向上	低学年児童	245人 72%	85人 25%		9人 3%	254人 74%	86人 25%	4人 1%	
	低学年児童	187人 55%	128人 38%		23人 7%	194人 57%	138人 40%	12人 3%	
	高学年児童	292人 42%	312人 45%	73人 10%	19人 3%	303人 43%	310人 44%	76人 11%	11人 2%
	高学年児童	320人 46%	278人 40%	91人 13%	8人 1%	309人 44%	287人 41%	101人 14%	5人 1%
	保護者	476人 53%	390人 43%	35人 4%	1人 0%	489人 52%	416人 44%	38人 4%	1人 0%
	教員	6人 19%	21人 68%	4人 13%	0人 0%	10人 31%	22人 69%	0人 0%	0人 0%
評価及び今後の取組	教員	7人 22%	22人 69%	3人 9%	0人 0%	4人 13%	26人 84%	1人 3%	0人 0%
	評価	国語科の言語事項・算数科の思考力について低学年、高学年ともに児童の自己評価は、高いといえる。特に低学年については前期の評価よりも後期の評価がよくなっている。高学年については、B2・Cの評価をしている児童（15%程度）への取り組みの充実が必要と考えられる。							
豊かな人間性の育成	低学年児童	238人 70%	80人 24%		21人 6%	245人 72%	84人 24%	15人 4%	
	高学年児童	401人 57%	209人 30%	74人 11%	12人 2%	368人 53%	231人 33%	80人 11%	21人 3%
	保護者	232人 26%	409人 46%	247人 27%	11人 1%	240人 25%	441人 47%	255人 27%	10人 1%
	教員	1人 3%	17人 53%	14人 44%	0人 0%	4人 13%	21人 64%	7人 22%	0人 0%
評価及び今後の取組	評価	保護者のみなさんや地域の方の協力もいただきながら、子どもたちへのあいさつや言葉かけをすすめてきた。また委員会活動などを通じて、子どもたち自身のあいさつに対する関心も高まってきた。そうした取り組みの中で、あいさつのできる子どもが育ってきている。校内で子どもたちと接している教職員の肯定的な評価が、ずいぶん向上した。							
	低学年児童	262人 78%	62人 18%		15人 4%	275人 80%	64人 19%	5人 1%	
評価及び今後の取組	高学年児童	423人 61%	235人 33%	35人 5%	4人 1%	413人 59%	248人 35%	40人 6%	1人 0%
	保護者	411人 46%	413人 46%	71人 8%	3人 0%	378人 40%	478人 50%	83人 9%	10人 1%
	教員	11人 34%	19人 60%	2人 6%	0人 0%	9人 26%	23人 68%	2人 6%	0人 0%
評価及び今後の取組	評価	おおむね高い肯定的な評価をいただいている。子どもたち自身の肯定的な評価が高く、清掃活動に充実感を持って取り組んでいることは大きな成果である。一方、校内に放置されている清掃用具が時々見られ、課題となっている。その際、どこの清掃用具入れにもどせばよいのか分からないケースが多い。年度初めの記名を工夫したい。							
	低学年児童								

評価者	項 目	前 期 4～7月				後 期 8～12月			
		A	B		C	A	B		C
			B 1	B 2			B 1	B 2	
低学年児童	校内でのあるき方・すごし方・あそび方のルールを守ることができた。	242人 71%	84人 25%		15人 4%	229人 67%	107人 31%		8人 2%
高学年児童	校内での歩き方・すごし方・遊び方のルールを守ることができた。	355人 51%	270人 39%	63人 9%	9人 1%	288人 41%	329人 47%	76人 11%	8人 1%
教員	校内での児童の安全を確保する指導を行った。	23人 74%	8人 26%	0人 0%	0人 0%	25人 74%	9人 26%	0人 0%	0人 0%
評価及び今後の取組	せまい階段ではあるが、右側通行の意識を高めるような環境整備をおこない、また新設した生活委員会の子どもたち自身による活動もはじめ、成果をあげている。活動的な子どもたちの日常生活の中で、常に安全確保についての教職員のその場での声かけが必要であり、その徹底は今後も望まれる。また、今後も効果的な環境整備を考えていきたい。								
低学年児童	道徳の学習できまりを守ることや友だちとなかよくすることなどについてかんがえた。	245人 72%	88人 26%		6人 2%	253人 74%	87人 25%		4人 1%
高学年児童	道徳の学習で大切なことに気づいたり、自分の生活をふり返ったりすることがあった。	357人 51%	260人 37%	68人 10%	12人 2%	367人 53%	255人 36%	70人 10%	9人 1%
保護者	学校は、子どもに「生命を大切にす心」や「社会のルールを守る」態度等、道徳心を育てようとしている。	398人 44%	464人 52%	39人 4%	2人 0%	367人 39%	508人 54%	66人 7%	3人 0%
教員	副読本や心のノートをしっかりと活用して、年間指導計画に基づいた道徳の授業を行っている。	14人 45%	16人 52%	1人 3%	0人 0%	15人 48%	15人 48%	1人 3%	0人 0%
教員	道徳の授業を保護者に公開した。	16人 52%			15人 48%	30人 97%			1人 3%
評価及び今後の取組	前期・後期ともに保護者の90%以上の方が学校の取り組みを肯定的に評価している。授業公開・こころのノートや副読本の活用が実践されてきた結果と考えられる。また、アンケート結果よりほとんどの児童が道徳の授業で自分の生活を振り返ったり大切なことに気づいたりしたと回答した。だが、何も変わることがなかったという児童も少数いる。今後も実態把握と心に響く資料の活用や授業の工夫を続けていきたい。								
健康づくり	低学年児童	282人 84%	49人 14%		8人 2%	304人 88%	38人 11%		2人 1%
健康づくり	高学年児童	485人 70%	168人 24%	35人 5%	9人 1%	502人 72%	156人 22%	36人 5%	7人 1%
健康づくり	教員	10人 32%	19人 62%	2人 6%	0人 0%	15人 48%	15人 48%	1人 3%	0人 0%
評価及び今後の取組	体育科の楽しさについては、低学年も高学年も児童のほとんどが感じる事ができたものと思われる。C・B2と自己評価している児童への取り組みが今後の課題である。「体育嫌いの子にいかんか体育の楽しさを味わわせるのか」という課題をしっかりと意識して取り組みを継続したい。								
低学年児童	「しん体力テスト」で、じぶんの体力や、うんどうする力をしることができた。	268人 79%	60人 18%		10人 3%	278人 80%	57人 17%		9人 3%
高学年児童	「新体力テスト」で、自分の体力や、運動能力を知ることができた。	533人 79%	115人 17%	23人 3%	5人 1%	528人 75%	137人 20%	29人 4%	6人 1%
保護者	子どもは、「新体力テスト」を行ったり、「わたしたちの体育」を活用したりすることによって、運動に関心を持って取り組もうとしている。	523人 57%	306人 34%	68人 8%	6人 1%	479人 51%	375人 40%	84人 9%	4人 0%
教員	新体力テストの結果を児童に伝え、課題を明らかにさせることができている。	13人 42%	16人 52%	2人 6%	0人 0%	16人 52%	13人 42%	2人 6%	0人 0%
評価及び今後の取組	前期同様、いずれも高い評価で、新体力テストの結果を教師が児童や保護者に伝えることで、体力や運動能力を意識するようになっていいると考えられる。次年度も新体力テストを早い段階で行い、結果を児童や保護者に伝え、児童の体力、運動能力の向上につなげていきたい。								
低学年児童	すすんで外で遊んだり、運動したりすることができた。	254人 75%	63人 19%		22人 6%	272人 79%	57人 17%		15人 4%
高学年児童	すすんで外で遊んだり、運動したりすることができた。	388人 56%	198人 28%	77人 11%	33人 5%	439人 63%	171人 24%	73人 10%	18人 3%
保護者	自分の子どもは、外で遊んだり、運動したりすることが好きである。	586人 64%	209人 23%	105人 12%	13人 1%	600人 64%	220人 23%	117人 12%	11人 1%
教員	うんどうカード、体力ドリルを活用したり、外遊びや運動を促したりした。	21人 68%	9人 29%	1人 3%	0人 0%	22人 71%	9人 29%	0人 0%	0人 0%
評価及び今後の取組	うんどうカードや体力ドリルの活用、運動を楽しむことのできる環境整備（ケンパ・的当て）、きらきらタイムの実施、教師による外遊びの働きかけなどを行った結果、進んで運動をしたり、運動を楽しんだりする児童が多く見られるようになった。今後も、児童がより進んで運動をすることができるような取組みを考えていきたい。								

ま ち く る み 教 育 の 推 進	評価者	項 目	前 期 4～7月			後 期 8～12月				
			A	B		C	A	B		C
				B 1	B 2			B 1	B 2	
児童	地いきでおこなわれている行事にさんかした。	592人	270人		172人	851人	140人		53人	
		57%	26%		17%	82%	13%		5%	
保護者	子どもが地域行事に参加している。	602人	220人		80人	798人	115人		30人	
		67%	24%		9%	85%	12%		3%	
教員	地域行事への積極的参加を促したことにより地域行事に参加しようとする児童が増えている。	11人	17人	3人	0人	18人	13人	1人	0人	
		35%	55%	10%	0%	56%	41%	3%	0%	
評価 及び 今後の 取組	8割以上の児童・保護者が、地域行事への児童の参加について「2つ以上の行事に参加している」と答えており、地域行事への参加は年々定着してきている。これからも、適切なタイミングで児童への情報提供をすることで、児童・保護者と地域とのつながりを深める一助となるよう努力したい。									
保護者	学校は、学校だよりや学年だより、Webページを使って学校の様子を定期的に知らせている。	533人	343人	22人	3人	513人	389人	36人	4人	
		60%	38%	2%	0%	55%	41%	4%	0%	
教員	学校だよりや学年だよりWebページを使って学校の様子を定期的に知らせることにより学校について関心を寄せる保護者が増えている。	13人	17人	1人	0人	17人	15人	1人	0人	
		42%	55%	3%	0%	52%	45%	3%	0%	
評価 及び 今後の 取組	保護者から高い評価を得ている。学校便りや学年通信において、定期的に必要な情報を発信することができていると感じている。今後は、学校のホームページの内容を児童を通して保護者にも知ってもらうなど、Webページの内容の周知にも積極的に取り組んでいきたい。									
教員	年間計画に基づいて、学校支援ボランティアを効果的に活用した校外学習等を行っている。	14人	9人	4人	5人	25人	6人	0人	0人	
		43%	28%	13%	16%	81%	19%	0%	0%	
評価 及び 今後の 取組	各学年とも年間3回以上は学校支援ボランティアを活用した。成果としては、いろいろな分野から専門的な話を聞くなど、校内だけではできない体験をすることができた。より効果的な活動をするための年間計画の立て方が重要であり課題でもある。今後も地域とのかかわりの意義をふまえて実施したい。									
学校 教育 全般	低学年 児童	270人	66人		3人	295人	45人		4人	
		80%	19%		1%	86%	13%		1%	
高学年 児童	学校は、楽しい。	458人	181人	48人	10人	465人	190人	43人	4人	
		66%	26%	7%	1%	66%	27%	6%	1%	
保護者	子どもは学校へ行くの楽しみにしている。	591人	253人	37人	5人	649人	256人	42人	6人	
		66%	29%	4%	1%	68%	27%	4%	1%	
評価 及び 今後の 取組	児童の肯定的評価の割合が、中間評価よりもあがっていることは、日々の学級での取り組みの成果だと考える。また児童が友達とのかかわりや学習活動の中で、充足感を感じるが増えているということだと考える。児童一人一人の評価の判断基準は「授業が楽しい」「友達と遊べる」など、それぞれに異なるが、児童個々の綿密な実態把握の上に、しっかりと仲間づくり、授業づくりを目指していきたい。									